

【尾道市】
校務 DX 計画

文部科学省の「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言に基づいた次世代の校務 DX 化に向けて、「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づいた自己点検の結果を踏まえ、次に掲げる事項を推進していく。

1. 学校と保護者間のクラウドツールの活用

令和 4 年度に保護者連絡システムを導入して活用している。自己点検の結果から、ほぼすべての学校で児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡や、保護者からの問い合わせや連絡に用いていることが分かる一方、学校から保護者へのお便りやアンケートといった用途については半数程度にとどまっている。

ICT 支援員等と連携しながら、利便性を周知しつつ学校現場に応じた活用方法について働きかけを行っていく。

2. 校務系および学習系ネットワークの統合

本市は現在、教職員が校務で使用するパソコン等が接続された校務系ネットワークと、主に児童生徒が学習で使用する端末等が接続された学習系ネットワークに分かれている。そのため、教職員は校務用と学習用の2台の端末を使用する必要がある、端末間でデータ移動や共有が容易にできない。

また、校務系ネットワークは職員室や事務室など一部の場所にしか整備していないため、文科省の目指す校務のロケーションフリー化が難しい。

ゼロトラストセキュリティの考え方に基づき、ネットワークの統合を目指すとともに、アクセス制御を前提としたネットワークの再構成も合わせて検討する。

3. 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムを導入して学籍や成績管理、出欠管理など利用をしているが、オンプレミス型での運用のため、ネットワークの課題と同様、校務端末の利用場所に制限があり、他の外部システムとの連携も難しい。

ネットワークの再構成に合わせて、校務支援システムのクラウド化も検討する。また、クラウド化の検討に関しては、県による共同調達・共同利用の動向も注視していく。